

洪水と浸水被害

洪水には、川の堤防が壊れたり堤防から水があふれたりして発生する氾濫(外水氾濫)と、降った雨が水路や下水道などで排水されなくなるにより起こる氾濫(内水氾濫)があります。

土砂災害の種類

急傾斜地の崩壊

●斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然崩れ落ちる現象。
●崩れ落ちるまでの時間がごく短いため、人家の近くでは逃げ遅れも発生し、人命を奪うことが多い。

土石流

●山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象。
●時速20~40kmという速度で一気に流れるため、土砂が煙などを増やしてしまふおそれがある。

地すべり

●斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象。
●土壌の移動量が大きい場合、甚大な被害が発生。

土砂災害警戒区域

土砂災害が発生した場合、住民の生命または身体に危害が生じるおそれがある区域。

土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域のうち、土砂災害が発生した場合に建築物に損壊が生じ、住民の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域。

雨の強さと降り方(1時間雨量)

やや強い雨 (10~20mm未満)

- ザーザーと降る。
- 地面一面に水たまりができる。
- 雨の音で話し声が良く聞き取れない。

強い雨 (20~30mm未満)

- どしゃ降り。
- 傘をさしていても濡れる。
- 寝ている人の半数くらいが雨に気が付く。

激しい雨 (30~50mm未満)

- バケツをひっくり返したように降る。
- 道路が川のようになる。

非常に激しい雨 (50~80mm未満)

- 滝のように降る。
- 傘は全く役に立たなくなる。
- 水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。

猛烈な雨 (80mm以上)

- 思わぬような圧迫感がある。恐怖を感じる。

避難のポイント

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性が想定された場合には、積極的に情報を入手して、早めの避難を心がけましょう。

正しい情報収集と早めの避難を!

テレビ、ラジオ等で最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意し、危険を感じたら早めに避難をしましょう。

安全な避難先、避難経路を確認しましょう

- あらかじめ避難先、避難経路を決めておきましょう。
- 避難先は、指定避難所だけでなく、安全な親戚宅や知人宅への避難も検討しましょう。安全な場所にいる場合は、避難先へ行く必要はありません。

動きやすい恰好で避難しましょう

両手を自由に使えるようにして、長靴より、脱げにくい運動靴を履き、安全に避難しましょう。

非常持ち出し品は最小限に

非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。

住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持とう

特に高齢者や子どもは、事前に防災メモを用意し、身につけて避難しましょう。

車で避難は控えてください

車は、約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は控えてください。

住民同士が協力して地域の防災力を高めよう

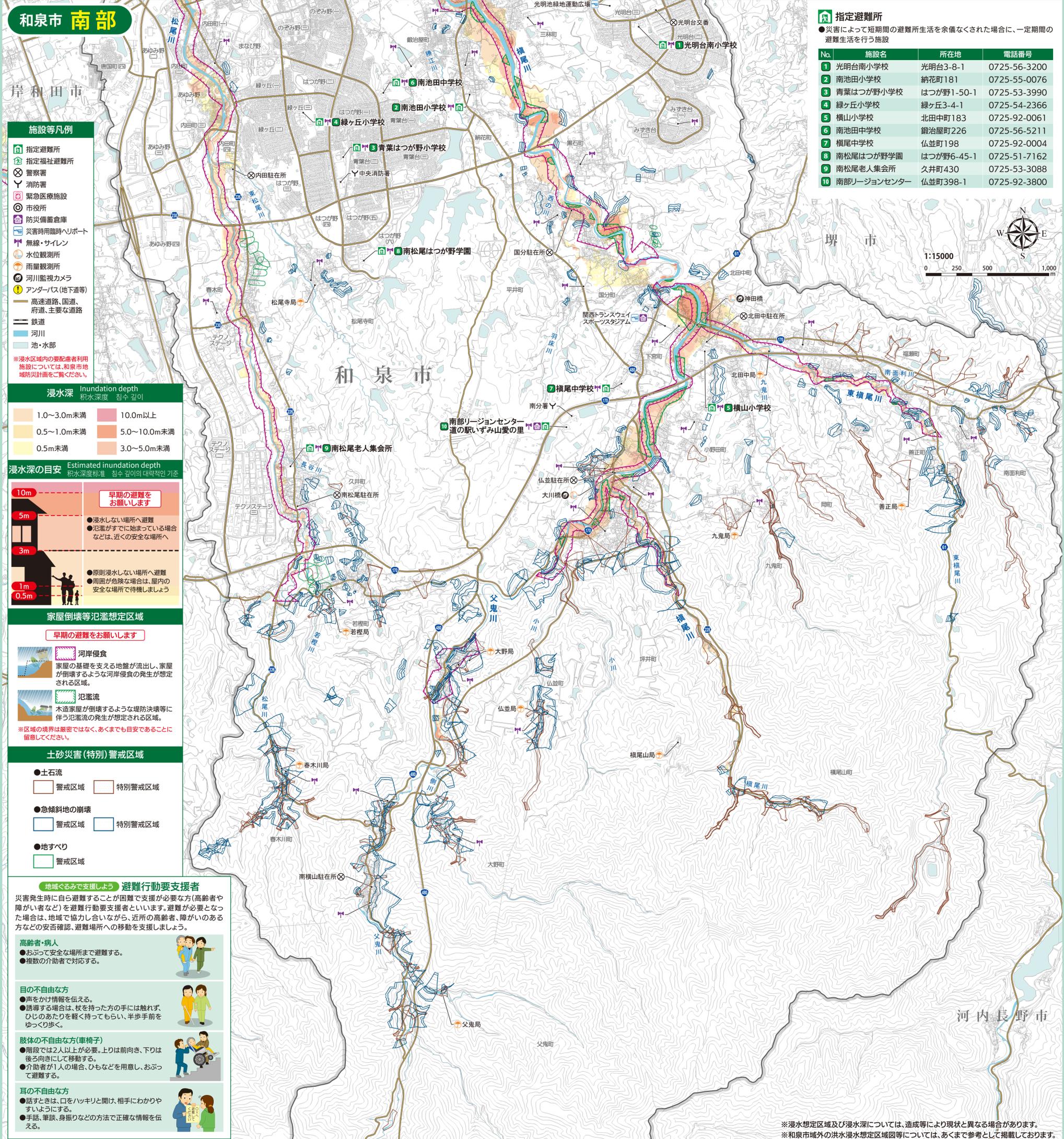
地域で危険な場所はないか、避難場所は安全か、みんなで話し合おう。

災害時における避難生活を考えて、自主防災組織や地域でまとまり、協力体制を作りましょう。

常に声を掛け合い、助け合う地域の輪、人の輪でみんなの安全を守りましょう。

地域版タイムラインを作成しましょう

台風等の大雨によって引き起こされる「洪水」や「土砂災害」の場合、一番危険な時間帯を気象情報で事前に確認し、災害発生前に避難することが可能です。しかし実際に台風が接近してからどう行動すればよいかを考えているだけでは、安全・安心な避難行動はできません。日頃から危機感を持ち、いつ、誰が、何をやるのかを考えておく必要があります。「地域版タイムライン」は「いつ」「誰が」「何をやるのか」に着目して、防災行動を時系列で整理した避難計画です。タイムラインを作成して、いざというときのために準備をしておきましょう。作成をお考えの地域については、**公民協働推進室危機管理担当**(0725-99-8104)までご相談ください。



和泉市 南部

施設等凡例

- 指定避難所
- 指定福祉避難所
- 警察署
- 消防署
- 緊急医療施設
- 市役所
- 防災備蓄倉庫
- 災害時臨時ヘルプ
- 無線・サイレン
- 水位観測所
- 雨量観測所
- 河川監視カメラ
- アンダーパス(地下道等)
- 高速道路、国道、府道、主要な道路
- 鉄道
- 河川
- 池・水部

※浸水区域内の要配慮者利用施設については、和泉市地域防災計画をご覧ください。

浸水深 Inundation depth

1.0~3.0m未満	10.0m以上
0.5~1.0m未満	5.0~10.0m未満
0.5m未満	3.0~5.0m未満

浸水深の目安 Estimated inundation depth

積水深度標準 積水 浸水の目安

10m

●早期の避難をお願いします

- 浸水しない場所へ避難
- 氾濫がすでに始まっている場合は、近くの安全な場所へ

5m

●原則浸水しない場所へ避難

- 周囲が危険な場合は、屋内の安全な場所で待機しましょう

家屋倒壊等氾濫想定区域

早期の避難をお願いします

- 河岸侵食**
家屋の基礎を支える地盤が流出し、家屋が倒壊するような河岸侵食の発生が想定される区域。
- 氾濫流**
木道家屋が倒壊するような堤防決壊等に伴う氾濫流の発生が想定される区域。

※区域の境界は厳密ではなく、あくまでも目安であることを留意してください。

土砂災害(特別)警戒区域

- 土石流
 - 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 急傾斜地の崩壊
 - 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 地すべり
 - 警戒区域

地域ぐるみで支えよう 避難行動要支援者

災害発生時に自ら避難することが困難で支援が必要な方(高齢者や障がい者など)を避難行動要支援者といいます。避難が必要となった場合は、地域で協力し合いながら、近所の高齢者、障がいのある方などの安否確認、避難場所への移動を支援しましょう。

高齢者・病人

- おぶって安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。

目の不自由な方

- 声をかけ情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持ってもらう。半歩手前をゆっくり歩く。

肢体の不自由な方(車椅子)

- 階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おぶって避難する。

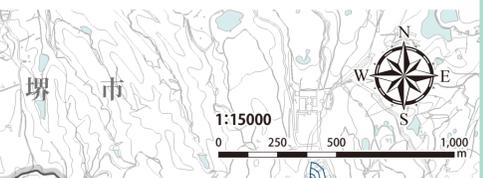
耳の不自由な方

- 話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

指定避難所

●災害によって短期間の避難生活を余儀なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う施設

No.	施設名	所在地	電話番号
1	光明台南小学校	光明台3-8-1	0725-56-3200
2	南池田小学校	納花町181	0725-55-0076
3	青葉はつが野小学校	はつが野1-50-1	0725-53-3990
4	緑ヶ丘小学校	緑ヶ丘3-4-1	0725-54-2366
5	横山小学校	北田中町183	0725-92-0061
6	南池田中学校	鍛冶屋町226	0725-56-5211
7	横尾中学校	仏並町198	0725-92-0004
8	南松尾はつが野学園	はつが野6-45-1	0725-51-7162
9	南松尾老人集会所	久井町430	0725-53-3088
10	南部リージョンセンター	仏並町398-1	0725-92-3800



※浸水想定区域及び浸水深については、造成等により現状と異なる場合があります。 ※和泉市域外の洪水浸水想定区域図等については、あくまで参考として掲載しております。